

[1999年8月22日(日)]  
八尾市教育委員会文化財課

## 1. はじめに

心合寺山古墳〔八尾市大竹〕は、古墳時代中期に築造された全長約160m以上を測る前方後円墳です。周囲には、西の山古墳、花岡山古墳、向山古墳、鏡塚古墳などがあり、これらの古墳を総称して、「楽音寺・大竹古墳群」と呼んでいます。

心合寺山古墳は、北・中河内地域で、最も大きな前方後円墳になります。昭和41年には国の史跡に指定されました。

八尾市教育委員会では、平成4年度(第1次～)から古墳の史跡整備のための基礎資料を得るために発掘調査を実施してきました。そして、平成11年度は、第7次の発掘調査として、墳丘全域にわたる調査区を計画しています。

第7次発掘調査は、7月初めから調査を開始しており、現在、継続中です。

今回の現地説明会では、特に後円部墳頂部の埋葬施設の構造等についての調査成果を公開します。

## 2 調査概要

### (1) 埋葬施設の位置・構造について

後円部墳頂平坦面では、後世の攪乱等により埴輪列等は検出できませんでしたが、埋葬施設を納めるための掘り方(墓壇:ぼこう)と埋葬施設の位置・構造を確認することができました。

- ・墓壇の大きさ(規模):南北約11m・東西約8m
- ・埋葬施設の位置・構造:南北方向を主軸として、東西に平行して並んだ3基の粘土槨(ねんどかく:木棺等を粘土で被覆したもの)
- ・これら3基の粘土槨は、大きな一つの墓壇内に納められたものと考えられます。  
同様の例)兵庫県加古川市行者塚古墳・三重県上野市石山古墳

### (2) 3基の粘土槨の概要

中央槨)3基の粘土槨のうち中央の埋葬施設で、最大規模のもの。長さ約7.6m、検出最大幅約1.3m。槨中央部が中世以降に破壊を受けていました。内部については明らかではありませんが、槨西外側には短剣が1本置かれていました。

西槨)中央槨の西側の埋葬施設。長さ約7.3m、検出最大幅約1.4m。槨中央部分が大きく破壊されています。また、粘土槨の北側も攪乱を受けており、鉄製品が露出しており、一部確認調査を行いました。

そして、この粘土槨内の小口部分で、衝角付冑(しょうかくつきかぶと)と短甲(たんこう)が直立した状態で置かれていたことが明らかになりました。

東槨)中央槨の東側の埋葬施設。今回はその北端部分の一部を確認しました。前回の調査成果と合わせると、長さ約6m、検出最大幅約1.1mになります。

3つの粘土槨の中では、やや小型のものになります。

## 3. 小結

今回の調査では、八尾市の所在する中河内地域を代表する古墳時代中期の大型前方後円墳である心合寺山古墳の後円部の埋葬施設の構造が、1つの墓壇内に納められた3基の粘土槨であることが明らかになりました。

さらに、甲冑類を副葬品に持つことが明らかになったことは、周辺地域を含めて、心合寺山古墳の被葬者が有力な豪族の一人であったことを推測させます。

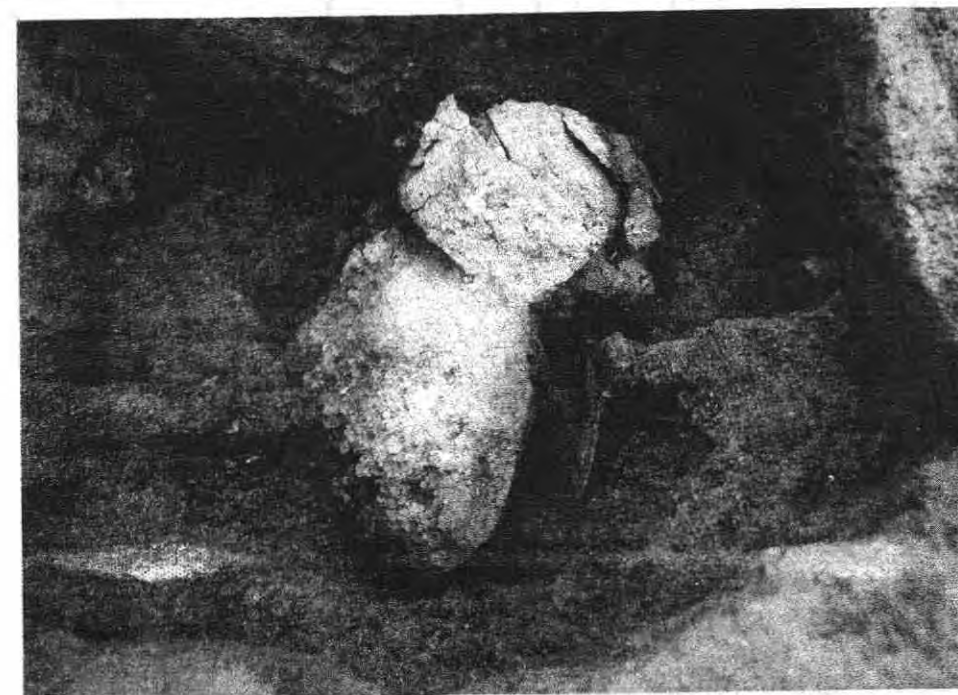
今後、さらに新たな古墳の内容が明らかになるよう、墳丘全体を含めた調査を継続して進めていく予定です。



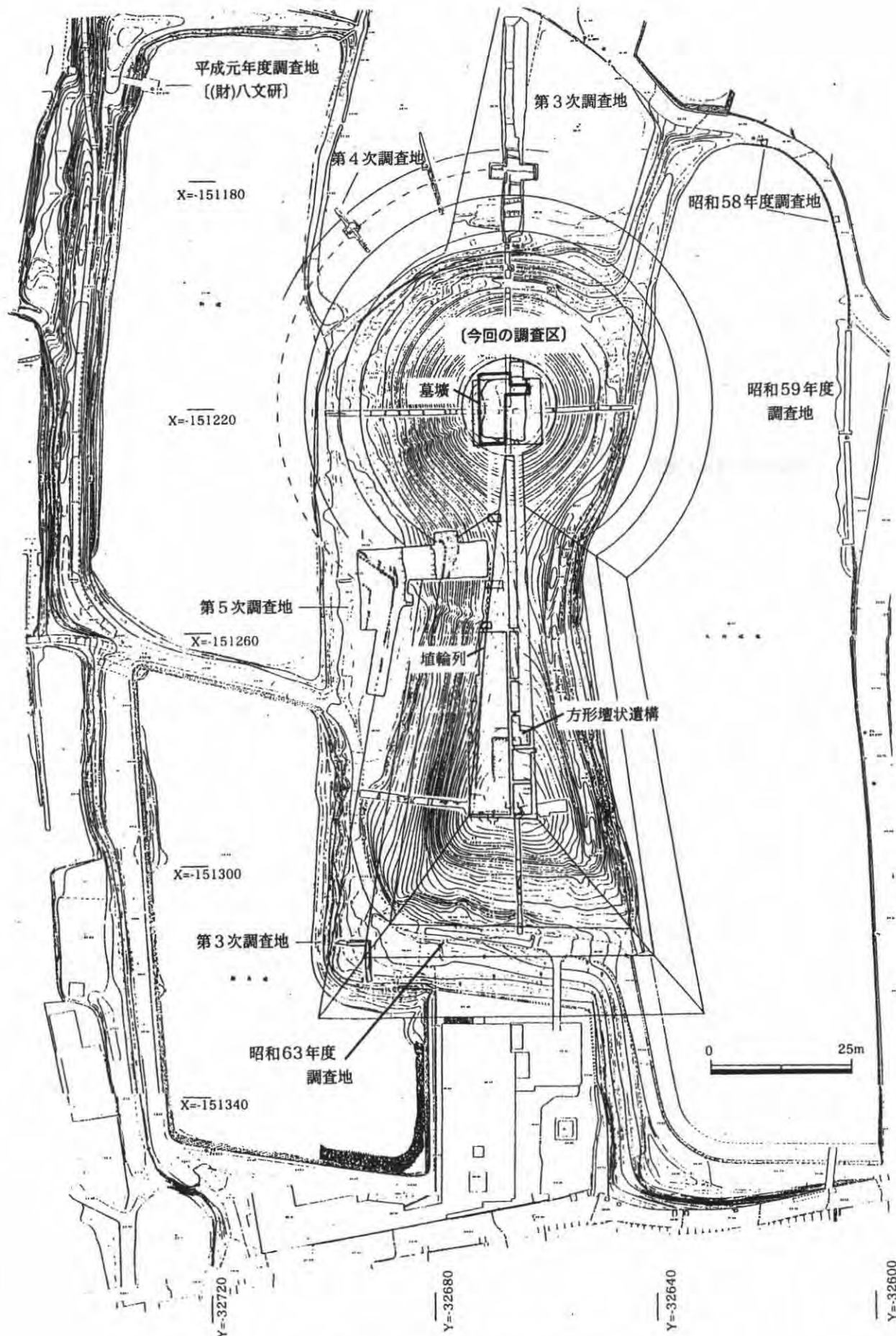
心合寺山古墳  
後円部粘土槨(北より)



後円部粘土槨(東より)



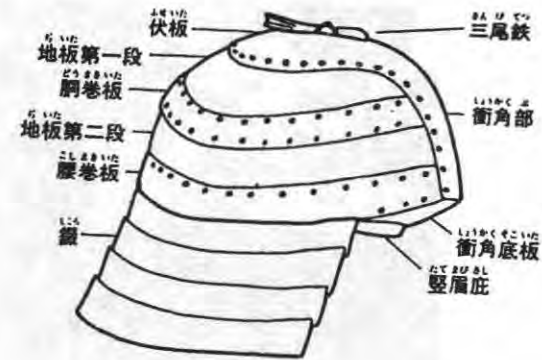
西槨出土  
甲冑



調査区設定図 (S=1/1000)

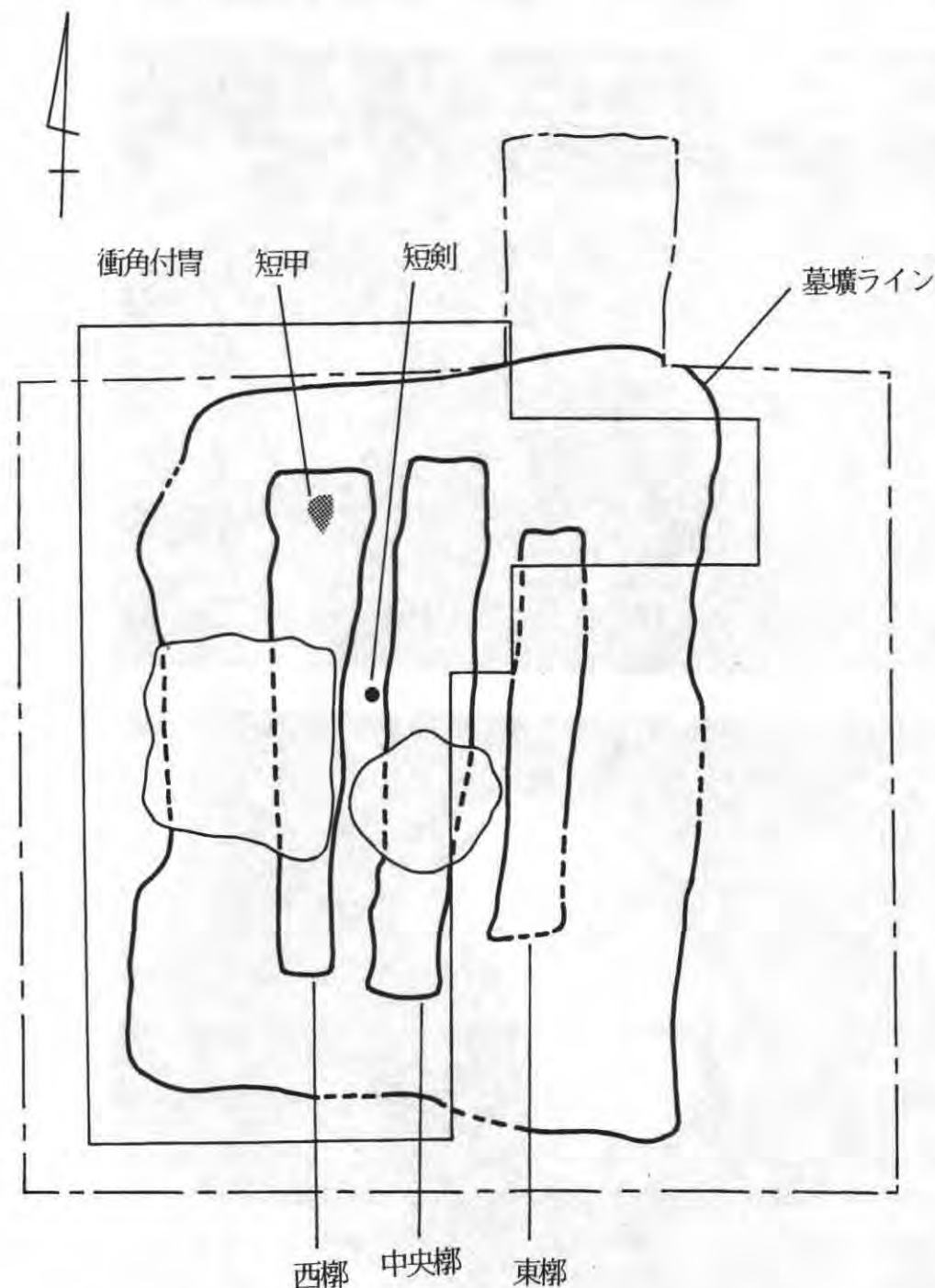


心合寺山古墳周辺図



衝角付冑の部位の名称

(模式図 今回出土品の構造は不明)



調査区 平面模式図 (S=1/100)